

市民と市政をつなぎ議会傍聴も続ける

# ウォッチング多摩

市民14万人が全員ウォッチャーでありサポーター！

～市民による市民のためのよりよい市議会・議員選出を目指して～

## 1万人アンケートと市民フォーラム

代表 神津幸夫

「私たちのより良い代弁者を議会に送り出せたら」との思いで、16年間という長い年月、年間80日あまりという少ない時間ではありますが、議会開催中14万人の市民がいるとはいえ、時にたった一人という傍聴席から、ひたすら「多摩市議会のウォッチングのみ」を続けてきたのではありますが……。

しかし時代の大きな転換期の今、これまでの「市議会だけのウォッチング」という、あなた任せのまち創りから自分ができること、自分の意思をまち創りに伝えることの大切さを私たち一人ひとりが自覚し、行動を起こさなければならない時だと考えるに至りました。

そこで私たちは会の名前を変え、まち・生活の問題を市政・市議会に届けられるような活動に新たに取り組むこととし、その具体的な活動としてまず1万人の市民を対象にアンケートを行いました。

今年の4月には4年に1度の市議会議員選挙がありますが、私たちの代弁者として送り出したい議員・議会の皆さんはどう考えているのかその声を集めて明らかにしたいというのが趣旨です。アンケート配布にあたっては、市内を10ブロックに分け、世帯数に応じて無作為抽出し会員が1万の家庭にポスティングいたしました。

アンケート内容は、まちの直面している課題、変化する時代に応える公共施設の維持管理・統廃合等についてと、議員報酬・定数、議会について等々、37項目の問いかけを行いました。

261人の方々から回答を頂き、それを集計・分析した結果は昨年10月末に発行したニュース69号で既にお知らせしています。さらに、その結果を踏まえて市民によるフォーラム、「議会に新風を」をテーマに行いました。第1部で“考えよう！まちの課題”について、第2部で“語ろう！議会議員”について、参加された皆さんと、時に市長およびコメンテーターを交えて3時間以上にわたり熱い討論がやりとりされました。

フォーラムの質疑、意見交換は、前向きに考えさせられるものが多く、私たちの活動へ一層の励みとなり、この貴重、有意義な意見を是非、議会・市政に届けるため今年4月の市議会選挙が良い結果となることを願ってやみません。

詳細はネット<http://watching-tama.com> 印刷物ご要望の方は事務局（6頁参照）へお申し込み下さい。

# 1人1人が動かなくては何も変わらない！ チャンスは4月の選挙、市議会改革に向けて

「ウォッチング多摩の会」の市民フォーラム報告

「ウォッチング多摩の会」（神津幸夫代表、「多摩市議会ウォッチング」改称）は14年晩秋、パルテノン多摩で多摩市民によるフォーラム市民による市民のためのよりよい市議会議員選出をめざしてを開いた。15年春の統一地方選挙を前に議会に新風を送るにはどうすべきかを討論するのが目的で、第1部では阿部裕行多摩市長も議論に参加、コメンテーターとして多摩市在住の政治学者山内和夫東海大教授にも出席してもらった。

この討論会に先立って会は、別に代表が書いているように市民1万人を対象に多摩市議会の現状や市議の活動などについてアンケートを行った。地方選の前の年に地方議員のさまざまな問題行動が伝えられる中で、このような現状を主権者たる市民がどう考えているかを明らかにしたかったからだ。討論会はこの調査結果に立って、その先にさらに具体的な展望を拓こうと行ったものだ。

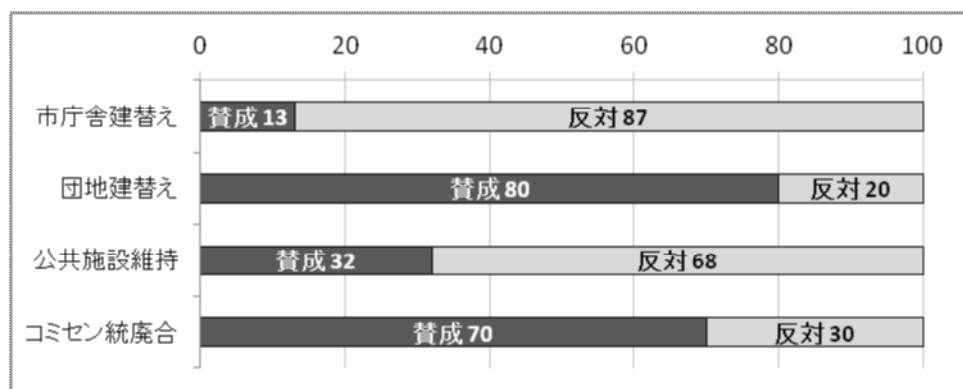
## 市民の関心は？

この日は11月22日、3連休の初日で晩秋の空はきれいに晴れ上がっていた。「いい日になり過ぎたね」と会場の受付担当がつぶやいた。この日の出席者は阿部市長を含めて48人。神津代表が最初の挨拶で、返ってきた261のアンケートで「討論会に出席する魅力を感じるか」の問いに対して86人がyesと答えたことを紹介して「嬉しかった」と感想を漏らしたが、それにしてもこの日の参加者は少ない。「いい日になり過ぎた」せいでもあったか。

100人の座席を用意した会場は、だから空席が目立ったが、議論の方は活発だった。討論は2部に分かれ、第1部「考えよう！ まちの課題について」と第2部「語ろう！ 議会・議員について」。第1部のテーマは、公共施設（市庁舎・団地建替え・公共施設・コミセン）、子育て・教育・医療・介護、の2つだった。

第1部の議論が始まる。テーマはまず公共施設。

議論の前に、この問題に関連するアンケート項目の集計結果が紹介された。（数字は賛成・反対比率）



## 「再配置はプロセスを踏んで」

フロアの論議は団地建替えの話から始まった。口火を切った永山在住市民の意見によると、この問題では公共性のある都営住宅、UR（都市再生機構）の賃貸住宅と分譲住宅など、住宅の事情はいろいろと違うのに、それがゴチャ混ぜで議論されている。URの建替えの理由は表向きは耐震問題だが、実はURの金の問題らしい。阪神淡路大震災でURの住宅は特に大きな被害は出ていなかった。それなのにメディアから「危ないぞ」という話が聞こえてくる。「裏には金のことがあるのに、住宅の安全性が前面に出ている」と、この人は指摘した。

豊ヶ丘の住民からは「公共施設の再配置計画は重要だが、決める時のプロセスをきちんとしてほしい」という意見が出た。施設を「ただ駅の周りに集めちゃうんじゃなく多摩市民全体の生活にとってどうなのか、その地域に本当に必要なのか、みんなの意見を集めて住民が納得できるようなプロセスを踏んでほしい」。

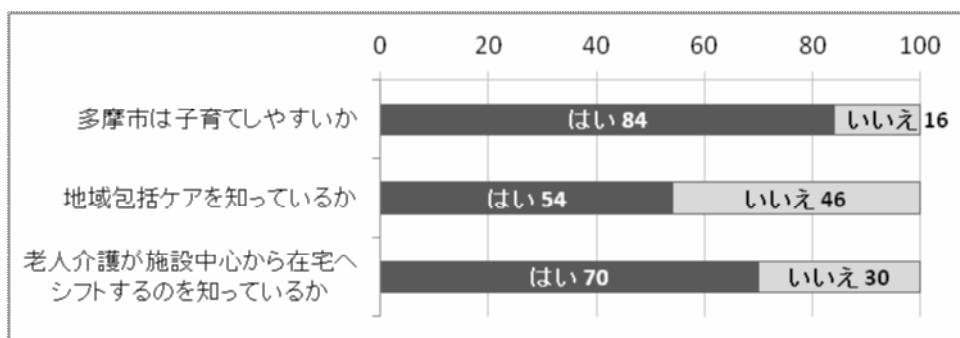
その前に百草の住民は「公共施設でも必要なものは必要だ」としながらも「遠くの立派な施設に行くよりも近くの集会所をもっと利用したらどうか」という意見を出していた。

これらは行政に対する要望でもあった。フロアの討論会参加者と向き合うように、コメンテーターの山内教授と並んで腰掛けていた阿部市長が、立ち上がってマイクを握る。市長は「公共施設の統廃合のために市長になったわけじゃない」とまず言った。そう言いながらも「若い人にツケを残さないために、どう持続可能な街にしていくか」という考え方に立って話を進めた。多摩市の施設は多くが「70～80年代に、（勤め人には）毎年1万円以上のベアのあった右肩上がりのすごい時代」に建てられ7割以上が築30年以上。維持するには莫大な費用が掛かる。「誰に負担してもらうか、税金だけではとても無理です」。市内88ヶ所の集会所の改修工事も「きびしい」。それ以外に図書館、児童館などを含む全施設に大規模な改修工事をやると「10年間で90億円足りなくなる」と市長は市財政の事情を説明した。

## 「安全で子育てしやすい町」を売りに出す

次の議題。子育て・教育・介護問題など。

この関係のアンケート結果は下図。（数字は、はい・いいえの比率）



84%の市民が「子育てしやすい」と考えているのが、多摩市の特徴だろう。この特徴は、まず立った「楽農クラブ」の市民の意見にも表れていた。この人は、アンケートの全項目の根底に「多摩市をどういう町にしていくか」という問題意識があると感じた、という。そして地球温暖化のせいで全国に自然

災害が多くなっていく中で「多摩市は安心、安全な町で子育てもしやすい」のが特徴ではないか、と指摘。さらに「この町をその角度から売り出したらどうか」と提言した。「公共施設の問題も最終的には人口がどうかっていくか、にかかわる。そこで多摩市は子育てにも自然災害にもいい町ですよ、と売り出すんです」。

行政についての意見や要望が出て、この辺から討論は阿部市長との一問一答風の展開になる。「楽農クラブ」の市民の提案に対して市長は「同意見です」と賛成した。「子育てにはいい町だということをPRすべきだ、と私も思う」。

介護問題については貝取から来た人がこう言った。「高島平では団地の空き部屋を高齢者用に改修しようとしているらしい。地域で介護するにはいいやり方だと思う。国の施策は自宅介護の方に向かっていようだが、一家で支えていくのはなかなか難しい。やはり施設で、ということになると高島平のやり方はいいのじゃないか。多摩市でもこういう構想を育てていくべきではないか」。

市長によると、そういう話はニュータウン再生に関連して出てきているが、高島平とは事情がかなり違う。高島平ではURの賃貸住宅で40㎡くらいの部屋が10~20%空いてきている。多摩市の場合ももっと広いから簡単には供給できない。「状況に違いはあるが、そういう方向は考えている」ということだった。

## 観客のままで活力は出ない！

次に一宮の市民が立った。「こういう会が市民の手で初めて開けたのはとても嬉しい」と前置きした後、多摩市役所で最近発生した一連の職員の不祥事を取り上げた。不祥事とは市役所の部長、課長が民間の業者とゴルフをした件と、生活保護費の過払いが何度か起きた件だ。「管理職の役人の役務違反行為は倫理感の乏しさを示している。市はコンプライアンス（法令順守）のためにどう取り組んでいるのか。過払いについては監査体制が甘いんじゃないか。ことが起こってからではなく、事前に発見するのが役目ではないか」と追及、市長の考えを求めた。

これに対して市長は「不祥事についてはお詫びする。ウミは徹底的に出すべきだと思う」との態度を表明してから、生活保護費については「全国の自治体でも問題になって」おり、ことは「生活保護のあり方に関係している」が、今度の場合、原因は職員の「事務懈怠。事務作業をきちんとやってなかったせいで、しっかりした処分はするが、何かに手心を加えたということじゃない」と言った。同じようなことを二度と起こさせないためと「全国的にもいい効果を出したいと考えて第3者呼んでやってもらっている」。

部課長のゴルフについては「そのために商談がまとまったというようなことではない」。処分したのは「業者が入っていた」からだが「そのために何かあったか」といって、そんなことは絶対ない」と強調。コンプライアンスについては「もう一度職員全体に確認している。市議会にも厳しく叱責され職員が縮こまっている面があるが、公務員は民間と接触しなかったら仕事にならない」と説明した。

第1部の討論はこのような流れで進んだ。その論議の終わり近くに聖ヶ丘からの参加者が立って、議論のそれまでの展開について「この会は市長に質問するのが目的ではないはずだ」と問題を提起した。

聖ヶ丘の市民は続けて「この会のテーマは多摩市をいかに活気のある町にするか、ということをも市民同士が議論することではないのか。市民が観客として市長に文句を言うんじゃなく、問題があるなら市民同士が議論をしてまとめていく。それが町を活発にしていくなじゃないか。それをしないで市長にば

かり注文をつけても、活力は出て来ない」という意見を出した。さらに続けて「いつまでも観客のまま  
で市長に文句を言うだけではしょうがない。その辺のことが多摩市民にはまだできていないんじゃない  
か。ここには優秀な市民がいるんだからその中から出た結論を市に持って行く。そういうことによって  
初めて町に活気が出てくるんじゃないか」。

この発言にフロアから拍手が湧いた。共感を示す拍手だったろう。

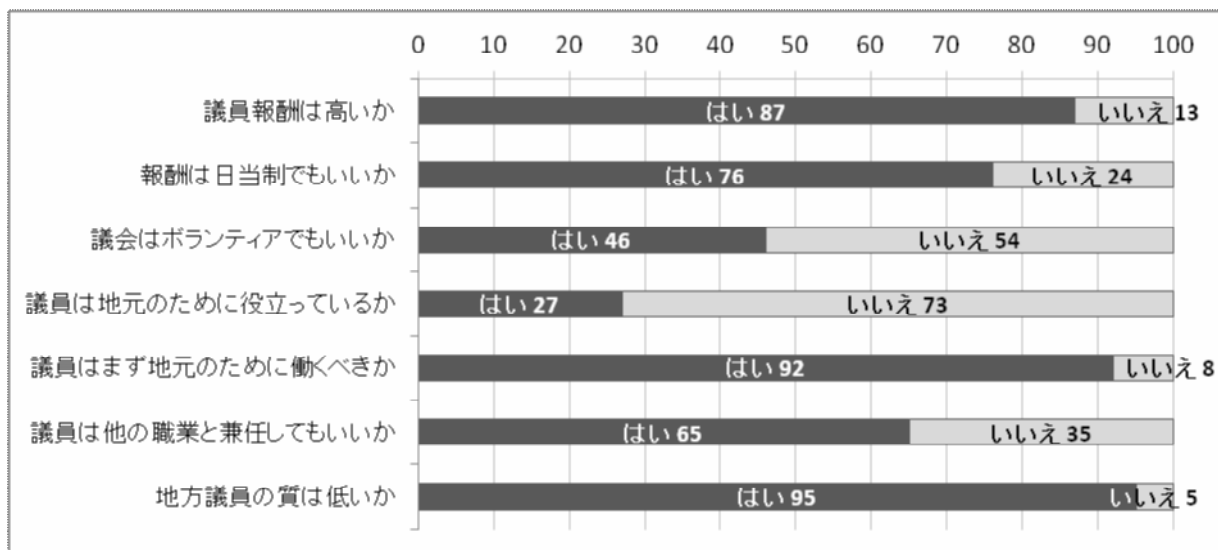
## 市議は1人も来なかった！

第2部「語ろう！ 議会・議員について」に会の用意したテーマは4つだった。 議員報酬と議員、  
多摩市議の動き、 議会制度、 回答者自身、である。

しかし「議会や議員について」語ろうとする前に、この討論会にいまの25人（1人辞職）の多摩市議  
が1人も出てきていないという現象が話題になった。

神津代表がこの奇妙な現象について報告し、問題を提出した。神津さんはこの会のテーマと開催日  
時を「市議全員にしっかりと案内したのだが1人も来ない。ウオッチングの会が勝手にやっているのに  
いちいちつき合えるか、とでも思っているのか、あるいは顔を出してつるし上げられるのが恐ろしいの  
か、それは知らない。しかし来年4月の統一地方選に向けて市民がどういう議員を望んでいるのかを議  
論する、その場に議員が誰一人として来ないのはなぜか、その辺もしっかり議論して頂きたい」。

このテーマ関連のアンケート結果。（数字は、はい・いいえの比率）



豊ヶ丘からの参加者が手を挙げた。地元の豊ヶ丘複合館存続の会に市長と市議の両方に声を掛けたと  
ころ市長は4回来たが市議は来なかった。「議員の考えも知りたかったのだが、会派の考えがまだ固ま  
っていないから一人ひとりに聞かれても答えられない、という。市会議員は地元のことをまず考えてく  
れるべきなのに党や会派に縛られている」という現実を指摘して「市議の質というか心構えには失望せ  
ざるを得ませんでしたね」。

次に一宮からの市民が立ち体験談を話した。議会活動に市民が参加できる機会で行われている  
のは、議会が各地域でやる議会報告会だ。その報告会、この人によると東村山市議会では年4回の議会  
の後には必ず開催するように条例に明記してある。ところが多摩市議会では議会報告会は「年1回以上

というボヤけた表現になっていて実際にやっているのは4月と11月だ。ところがこの11月の報告会は突然やめてしまった。なぜか。何の説明もされていない」。質問したところ「議員が慣れていない」「反対する議員が多い」との答えだったという。「議員の側には市民にまともに向き合う姿勢がないのではないか。むしろ避けようとしている」。この人がこの体験から得た答えだった。「これでは市民が議会をよく思うはずがない」と一宮の市民は嘆いた。

## 署名運動をやるうか

ここで神津代表が発言した。回答してきた261人は「ある程度市政や市議会に関心を持った人だろうが、これが市民の総意だとすれば、例えば87%が「高い」と思っている議員報酬について議会が何かを決められるのは唯一、条例を制定することによってじゃないか」と提案する。市議会の仕事は行政のチェックと条例の制定の2つ。多摩市議会の場合「条例の制定はほとんどない」のだが、神津さんは議会が「自浄能力を発揮して仕事の割にはもらい過ぎだよな、と思ったら、減らそうという条例を作ればいい」し、「26人じゃ多いかな、と思ったら、減らす条例を作ればいい」と神津さんは指摘する。

しかし市議会が自主的にそんなことをやるかどうか。神津さんは続けて「市民の側には陳情という方法があるが、それが議会運営委員会で取り上げられなかったらそれで終わり」だ。「議員一人年800万円の報酬は、平均所得年350万円の市民の血税ですよ」と神津さんは声を高め「そういう市民の意思表示が議会を通らなかった場合」は方法が3つあると言う。1つは有権者の50分の1の数の署名を添えて、その意思を市長に提出する。2つ目は市長が発議して条例案を議会に出す。そして3つ目は議会が自らやる。「こういうこと（署名運動）をやってみたらどうか」と神津さんは締めくくった。

## 地域のことを地域で決める力

次に立ったのは、さっきの楽農クラブの人だった。この人はフォーラムのキャッチコピー「議会に新風を、市民による市民のためのよりよい市議会を」を「そのために市民のみなさん、何ができますか」と読み替えたと語りこう話した。「議会と市民の間にはいま大変な乖離がある。システムの中でめくめくと生きる世界を作っている議会と市民の間の乖離だ。この状況で市民は何ができるか、そのスタートがこのフォーラムなのではないか。このままでは議員もシステムも何も変わらないだろう。なぜか。14万市民が評論家になっていて動かないからだ。一人ひとりが動かなくては」。

この発言に参加者から拍手が起こった。それに刺激されたかのように会場からの発言は少しずつ熱を帯びてきた。豊ヶ丘からの女性が立った。

「1万人に出したアンケートに261人しか応じなかったということにビックリした。市政や議会に関心を持つ人が少ないのかなあ、とも思うが、このフォーラムの集まりも悪い。これは市民全体、市全域を対象にしているからではないか。もっと豊ヶ丘とか落合とか地域地域でやってみて（拍手）、それを最後にまとめて市民の意見としたらどうだろうか」。

この意見に同じ豊ヶ丘からの参加者が「ごもっともだと思う」と応じた。住民の意見を行政に反映させるためのやり方には「地域協議会という形があり、この問題で市長とやり取りをしたことがある。市長は地域協議会を立ち上げると約束したが、その後ウヤムヤになってしまっている」。

地域協議会に関連して神津さんが福岡県刀洗町の例を出した。ここではゴミの処理場を巡って地域協議会を立ち上げて議論をした。「市民同士が心を開いて話し合っただけで解決していった。地域のことを地域で決めた例だと言える。こういう例はいま日本のあちこちで出ている。市民に問題を乗り越え

ていく力がついてきているんじゃないか。税金が減っていく時代だから負の分配を間違いなくやっていけば答えは市民自ら出していくと思う」。

## 時代に即した方法で活動する議員を

この神津さんの話にフロアから反応があった。「確かに市民がやる時代かもしれない。多摩市ではレベルが高いのは市民で次が職員、いちばん低いのが議員だ。議会を変えていこうとしたら今度の選挙が第一のチャンスだと思う。私は議員の定数は減らした方がいいと思っている。優秀な多摩市議がないとは言わないが、とても少ない」。

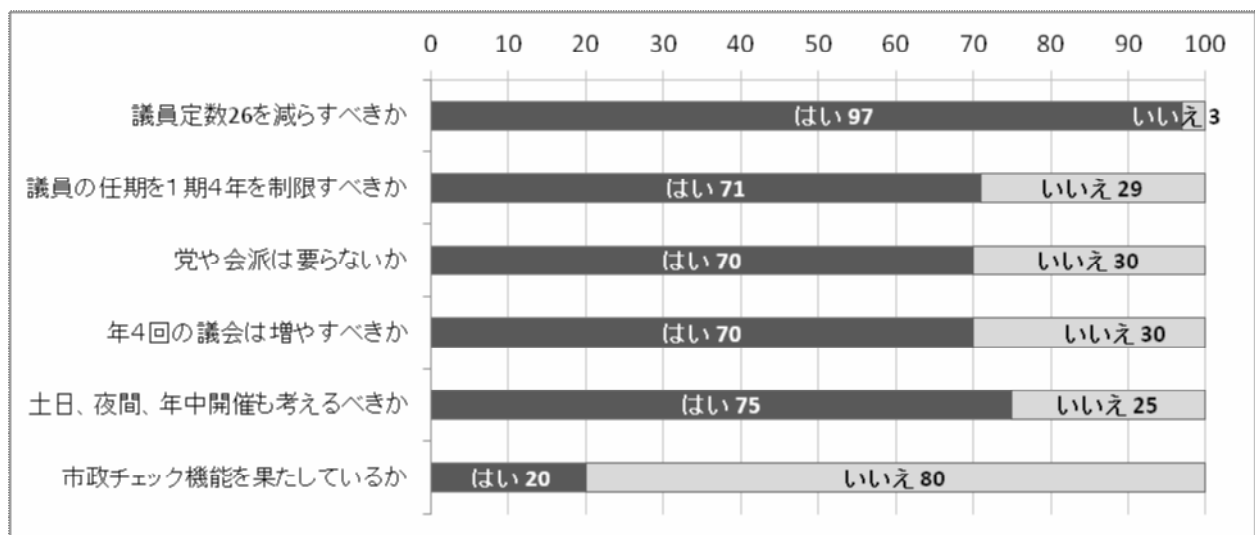
「変えていくにはどうするか」とフロアからまた声。「眠っている市民の目を覚まさせることが重要だと思う」。どうするか。この人の考えはこうだった。「議会の現状を認識させるんです。年4回の議会で月に50万円は入る。二次報酬も入る。議長やナントカ委員長になると、またウン万円。ぬるま湯に浸かっている勉強しなくても最低50万円だ。兵庫県議会の号泣議員のようなことをやっていないのかどうか。そういう情報を市民に流すんです」。

これらの意見に対しては、やや違った角度から発言があった。「年間報酬が8百何十万円として、それでは誰か、今の仕事を辞めて市議をやりますか。やらないでしょ。そういうことをしないで800万円は高いというのはどうなのかな、という気がする」という意見だ。そういう見方に立つと、市議が誰もこの討論会に来ないのは、それが次の選挙の票に結び付くのか、就職活動になるのか、と捉えて「就職活動にならないと思ったからだ」という実に明快な結論になる。つまり市議の参加者ゼロという事態は不思議でもなんでもなく、ごく当たり前の話だ。この人は「市議でフェイスブックで発信している人がどのくらいいるのか。あまりいないだろうなと思う。こういう今の時代に即した方法で活動する議員を応援しようかなと思っている」と新しい問題を提起した。情報発信というこの時代にいちばん特徴的なテーマに関連させて問題を新しい角度から捉えようとする議論だった。

## 市民主催の議会報告会を

次のテーマは「議会制度」。

関連するアンケート結果は下図。(数字は、はい・いいえの比率)



「議会制度」については、さきほどの聖ヶ丘の市民から手が上がり、5年ほど前に市議会が議会基本

条例をつくる前にやったアンケートについて話した。この時は「報酬は多過ぎる、下げろ」が多数で、議員定数は「20人」が40数%でいちばん多かったという。「問題はしかし」とこの人は続けた。「その議会や市議が何の痛みもなく暮らしているということなんです。やることがあまりないのに議員は26人もいる。そういう状態に対して市民の宣言として出してアピールしていく必要があるんじゃないか」。

さっき話に出た議会報告会は「議会事務局がやっている。その限りではいくらやっても市民はお客さんだから市民の声は届かない。それを市民が主催するという形に変えていく必要がある」というのが聖ヶ丘の市民の意見。さらに続けて「そういう考えを集約して、このフォーラムの成果として打ち出していくのがいいんじゃないか」と提言。「どうですか、先生」とコメンテーターの山内教授に話を向けた。

「それは正論ですよ」と山内さん。「おっしゃる通りです。問題はどういう風にやるか、そのために方策をいかに立てていくか、その1点に掛かっている。どうやっても関係ないということになったら議員の椅子を確保した方がいい。例えば議員の数を減らすために立候補して当選していくんです」。

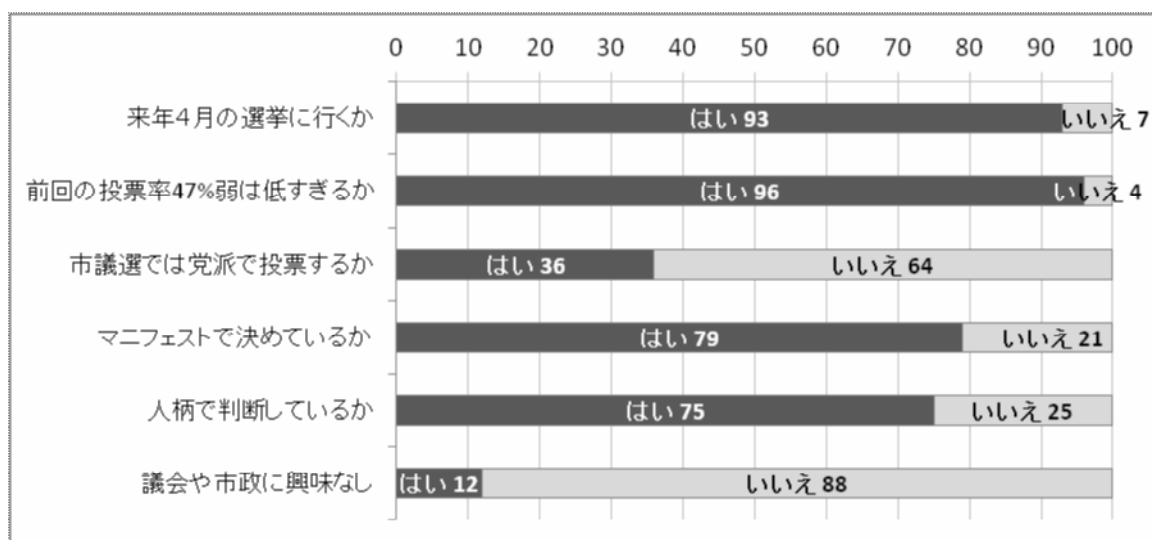
神津さんが話を引き戻した。「有権者の50分の1の署名を集めて、例えば<定数を半分の13人にしたい>と市長に出すと、市長は議会に出さなくてはならないでしょう」。

これに対しては「ハードルが高いですよ」と山内教授。「それをやるのが議会だ、というハードルです。やる価値はあるが市民の意識の高まりがそこまであるかどうか、なにしろ1万人に出して261人しか返ってこなかったんだから。現状維持でいいという反応の時に、それができるとは思えない」。

## 市民の意識が議員に表れている

関連発言が出た。「このフォーラムを市民が企画したのがすごく意義がある。行政や市議会に関心のある市民を増やして、党のためではなく地元のために頑張るんだという議員を増やす」。この発言者は議会改革についても強調した。「多摩市議会には議会の機能を高めるために市民と話し合おうとする姿勢がない」。この人が出したのは小平市の例だった。ここでは議会も委員会も市民と意見の交換会をやっている。「市民と議会は対立ばかりしているんじゃなく、そういう話し合いの場も増やしていかななくてはならないのではないか」。そのためにも次の地方選は大切な機会になってくる。「多摩の議会にも優秀な議員がいることは間違いない。そういう議員を分別して投票すべきだと思う」。

最後のテーマは「回答者自身」だ。アンケート結果は下図。(数字は、はい・いいえの比率)



このテーマには永山の市民が「議員のあり方は市民の意識の表れでもある」とやや皮肉な見方を示し



「投票率にも主権者の意識がそのまま出ている」と語った。この人は何年か前に「多摩ニュータウンわが街」という映画を撮った監督の見方を紹介、「多摩市には市民社会はない」と監督は言ったという。「市民としての横のつながりが限られている。それが特徴であり欠点だ」が監督の見方だった。この永山の市民はボランティア活動を通じて老人と接する機会が多く「年寄りの介護は大きな問題だが、それについての市議の意見が分からない」。三鷹市では「地域ケアネット」を10年やっているが、多摩市にはそれが生まれぬ。「そういう状況に市議が何を考えているか、まったく分からない。市民も住んでいる町の問題には関心がないのではないか。そういう意識が市議に反映しているんじゃないか。とても前向きな意見は出しにくい」。

## コミュニティサイトを立ち上げた！

---

ここで「ウオッチング多摩の会」からサイト担当者が発言した。アンケートの集約・分析にかかわり、この討論会でもテーマごとにアンケート結果の報告に当たった人だ。

「今風にいかに多くの人に知らせるか考えると、インターネット、フェイスブック、ツイッター、それらを気軽に使って議論するということがある。その場が活気づいてくると市も市長も無視出来なくなるんじゃないか。そういうサイトを作っていきたい」と会の活動の新しい方向について語った。「ウオッチング多摩の会」のコミュニティサイトを最近立ち上げたが、ここにはいろんな角度から分析できる「市政データ活用サイト」がある。「われわれ自身が分析して若い人にも関心を持ってもらえるようなサイトを作って、会は老人だけでやっているんじゃないよ（笑い）、と知らせていきたい」。

3時間に及ぶ論議ではこうして、時に悲観的な見方も皮肉な意見も出され、時に時代に合った新しい方向も示されながら、全体としては「自分たちの手でよりよい市議会・市議を」というテーマに沿って考えが述べられアイデアが語られた。「次の4月の選挙がチャンス」「このフォーラムがスタート」という言葉が再三飛び交ったことにも、参加者の思いは反映していたように思える。

## 党派は超えられる、と山内教授

---

議論を締めくくった山内教授によると「多摩市民は大体において学歴が高く会社では役職にいた人が多い。市政や議会に関心がないような顔をしているが本当は関心を持っているんじゃないか。だから今度アンケートを出さなかった人が必ずしも無関心だったとは限らない。アンケートは多摩市民の傾向をおおよそ示していると言っていい」ということだ。

山内さんはまず、アンケートに目を通して多摩市民の特徴の1つを「金のかかることは嫌だ」と考えていることだ、と見た。「そうだとするなら、それをきちんと理解できるような議員、金がかかることをチェックできるような議員をまず作ることはないか」。

もう1つは、選挙で投票する相手を決める要素として、マニフェストや人柄が党派をかなり上回っていることを指摘。「そういう人が投票の主導権を握っているのだから、それを糾合すれば党派を超えられるんじゃないか。これを実行できる市議を選んでいけるようにしたらいいのではないか」。

そして結びは「多摩市の有権者はそれなりに考えていると思う。捨てたものではない。それを信じて活動していつてもらいたい」と、この日の議論に参加した40 数人の意気を励ますようなアドバイスだった。

議会に新風を！活めある多摩市を  
フォーラム  
「市民は市民のためのよりよい市議会・議員選出をめざして」

上の写真は今回の「フォーラム会場正面を飾らせていただいた山田みちよさんの筆による大看板ですが力強い勢いを得て、今年のウォッチング多摩の会の原動力とさせていただければ幸いです初夢でした。

## みなさんの初夢と今年の抱負は？

多摩市は147,564人（女性75,080人、男性72,480人）の市民と68,462世帯の皆さんの生活で成り立っていることをご存知でしたか？そして「市民の代表」として26人の市議会議員によって構成されている議会があり、今年4月には「市議会議員選挙」が行われるのはご存知ですよ。

今回の「1万人アンケート」や「フォーラム」によって、今まで知らなかったこと（情報不足）が、いかにたくさんあり、その一つ一つがじつは、我々の日常にとっていかに大切であるかということも知りました。

この世に生を受け、そして終焉を迎えるまで、いや朝目覚めて、茜色の夕陽を見送り床につくまで、これらすべてが「政治」なのです。「政治は生活そのもの」なので、他人任せにしているは「つまらない」はず。

「生きることが政治です」イデオロギィーにまどわされることなく、目もくれずにアイデンティティを信じて4月の市議会議員選挙には投票に……。その行為がこれからの「生きる原動力になる」であろうことを信じ、願いつつ……

## ◆初めての市議会傍聴◆

過日、知人から誘われ初めて多摩市市議会を傍聴しました。議場は多摩市役所4F奥にあり、前面に議長席、左右に市長はじめ市役所担当職員、中央は市議会議員の会派グループごとの座席となっており、後ろ側に傍聴席が25席くらいある。

当日は7名の市民傍聴があったが、多い方だと言う。時には傍聴ひとりのときもあるそうだ。

審議内容は別にすると、初経験の傍聴者から見た感想は、同じ内容を何度も繰り返したり、また、重箱の隅をつつくような内容だったり迫力感のないもので、勝手に想像していたような緊迫感が伝わってこなかったというのが実感である。市議の質問内容は何点か関心のあるテーマであったが、それに対する市側の返答は充分とは思えなかった。いずれにしても初傍聴は多摩市のグランドデザインたる将来像が描けていず、目前の問題に取り組むのがやっとではないかと思われた。

このような実感は、広報等では、なかなか見えてこないように思われるので、ぜひ、市民の皆さんは、年に一度だけ2時間だけでもよいから、市議会を傍聴されることをおすすめしたい。

このたった2時間（もちろん一日中の傍聴はなおまし）は将来の多摩市、ひいては、市民一人ひとりの生活に新たな視点を与えてくれるでしょう。傍聴は、何も難しくありません。受付で住所、名前を記入するだけですから、議会開催中にぶらっと傍聴も有意義な時間の使い方に繋がります。「百聞は一見にしかず」です。

(70代女性・M)

## 入会申込書

氏名 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

電話・FAX \_\_\_\_\_

メールアドレス \_\_\_\_\_

### ■会費・カンパ振込先■

みずほ銀行多摩センター支店 1197246

「多摩市議会ウォッチングの会」

### ■申し込み先■

「ウォッチング多摩」の会 代表 神津幸夫

〒206-0031 多摩市豊ヶ丘5-1-6-203

? 042-400-6680

HP: <http://watching-tama.com>

★入会金は必要ありませんが、会報発行等の活動維持のために年会費2,000円を頂いております。